

An underwater scene with a large school of fish swimming in a blue, slightly hazy environment. The fish are small and silvery, moving in a coordinated pattern. The background is a deep blue, suggesting an underwater setting.

第12回 アクラスZOOM寺子屋2022年7月3日（土）

他言語話者とは 「共生」できないのか？

コーダとしての経験と
マイノリティとの対話をもとに

中井好男（大阪大学）



みなさんと考えたいこと

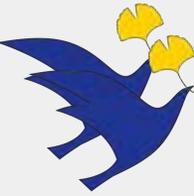
共生（河森・栗本・志水，2016：4）

「民族、言語、宗教、国籍、地域、ジェンダー、セクシャリティ、世代、病気・障害等をふくむ、さまざまな違いを有する人々が、それぞれの文化やアイデンティティの多元性を互いに認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きること」

▶ 「パートタイム」的共生（片田ほか，2021：155）

・マジョリティの視点から見る共生 vs マイノリティの視点から見る共生

▶ 「協同翻訳」（桂ほか，2021）



ただし

ディスアビリティ

インペアメント（身体の機能損傷、機能不全）に基づく日常生活や学習上の困難で、教育によって改善し、又は克服することが期待されるもの（国際障害分類（ICIDH））
→改訂版として「国際生活機能分類（ICF）」

*ディスアビリティのある当事者の近親者の自己語り

*私のコードダとしての「生きづらさ」（トラウマ、スティグマなど）≠ディスアビリティ

*ディスアビリティの問題に便乗し、その本質を見失わせることが目的ではない。

コーダ (Children of deaf adults)



本年度 **アカデミー賞**
作品賞含む**主要3部門ノミネート!**
(助演男優賞:トロイ・コッツァー、脚色賞)

WORLD RANKING
Finans 第1位

家族の中でたったひとり 健聴者である少女は、「歌うこと」を夢みた。
聞こえない耳に届く最高にイカした歌声が、今日、世界の色を塗り替える。

Coda
あいのうた

2022年1月21日[金] TOHOシネマズ日比谷他 全国公開

豪華プレゼントが当たる
感想投稿キャンペーン実施中!!

監督・脚本:シアン・ヘダー
出演:スミリア・ジョンズ、フェルディ・ウォルシュ、ピーター・ディンクワース、マーサー・マートソン

配給:マイ GAGA

「Coda コーダ あいのうた」
オリジナルサウンドトラック
聴くだけで

CODA (So...
ヴァリアス...

コーダ (Children of deaf adults)



- 聞こえない親のもとに生まれた聞こえる子ども
- 両親とも、あるいは、どちらかの親が聞こえない、中途失聴、難聴 (Coda international)
- 両親の価値観やビリーフ、支援環境などの影響 (宮澤, 2012など)
- ろう文化と聴文化の「バイカルチュラル (Grosjean, 2010)」
- Children of Deaf Adults as Third Culture Kids (Mellett, 2020; 中井, 2021)



コーダ (Children of deaf adults)

- ・聞こえの程度
 - 聞こえない
 - 中途失聴
 - 難聴
 - 聞こえる

- ・聞こえの程度
 - 聞こえない
 - 中途失聴
 - 難聴
 - 聞こえる



- ・コミュニケーション方法
 - 日本手話
 - 日本語対応手話
 - ホームサイン
 - 口話
 - 筆記
 - 音声日本語



- ・コミュニケーション方法
 - 日本手話
 - 日本語対応手話
 - ホームサイン
 - 口話
 - 筆記
 - 音声日本語



- ・取り巻く環境
 - 親族における聴覚障害者の有無
 - 教育
 - 家庭環境
 - 育児支援

- ・取り巻く環境
 - 親族における聴覚障害者の有無
 - 教育
 - 家庭環境
 - 育児支援



中井 (as a child of deaf adults)

- ・聞こえの程度
聞こえない

- ・聞こえの程度
聞こえない

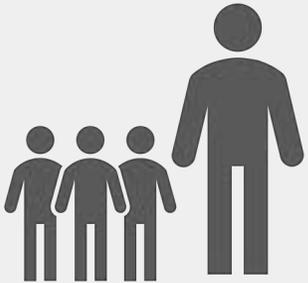
- ・コミュニケーション方法
日本手話
日本語対応手話
ホームサイン
口話
筆記

- ・コミュニケーション方法
日本手話

ホームサイン
筆記

- ・取り巻く環境
全員聴者
教育
家庭環境
育児支援

- ・取り巻く環境
全員聴者
教育なし
支援なし
搾取



当事者研究

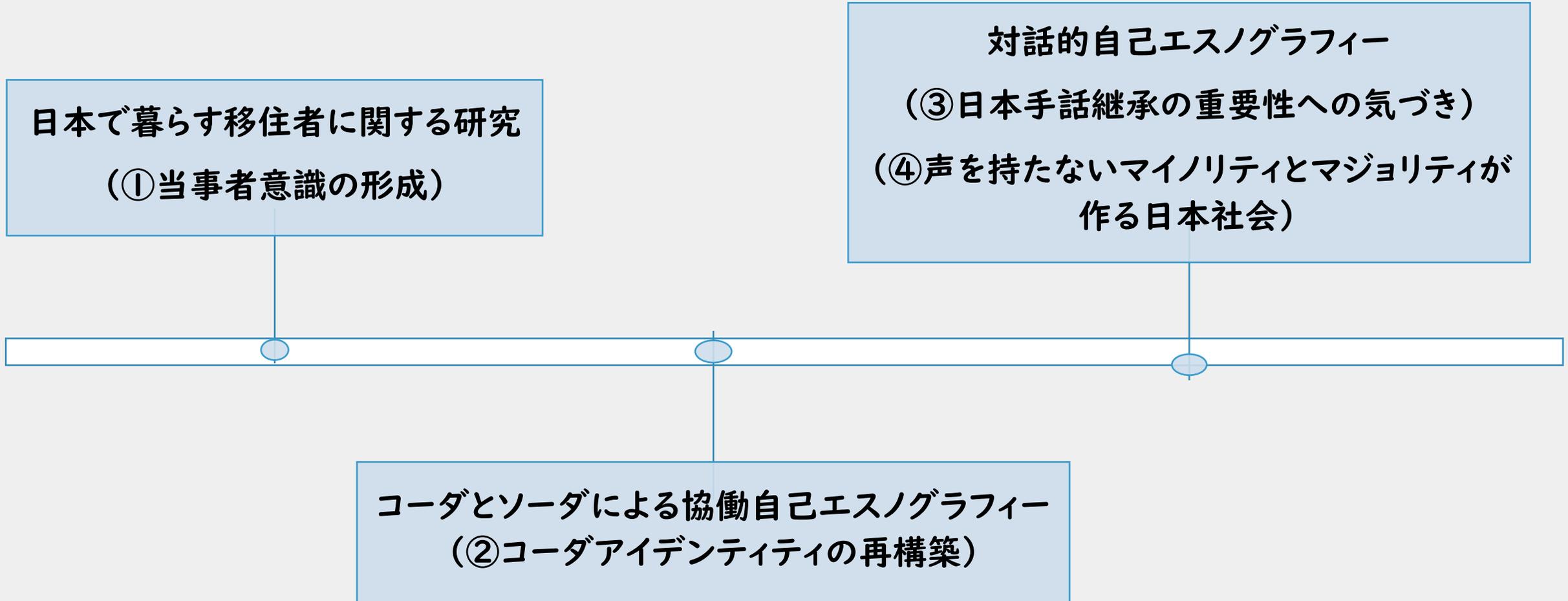


「当事者同士の **対話** を通して、それぞれが置かれている文脈の中で自身が抱える課題（「困りごと」や「生きづらさ」など）に意味づけを行う（熊谷, 2020）。」

- 対話
 - * 「今、ここ、誰に」という文脈で体験された出来事が選ばれ、筋立てられる（森岡, 2019）
 - * 対話者の視点を潜らせた自己の再解釈（解釈学的循環）
 - * 対話者との関係性における当事者世界の記述



オートエスノグラフィーに至るまで





オートエスノグラフィーに至るまで

日本 対話者の視点を潜らせた自己の再解釈（解釈学的循環）

イガ

「当事者である」→「当事者になる」（上野，2011）
*社会的な不平等

現在の私の思いをまとめたオートエスノグラフィ



The International Conference of Autoethnography 2022

Spotlight Panel: “Walking for ourselves”: The Study Group for Self & Qualitative Inquiry, Osaka University, Japan

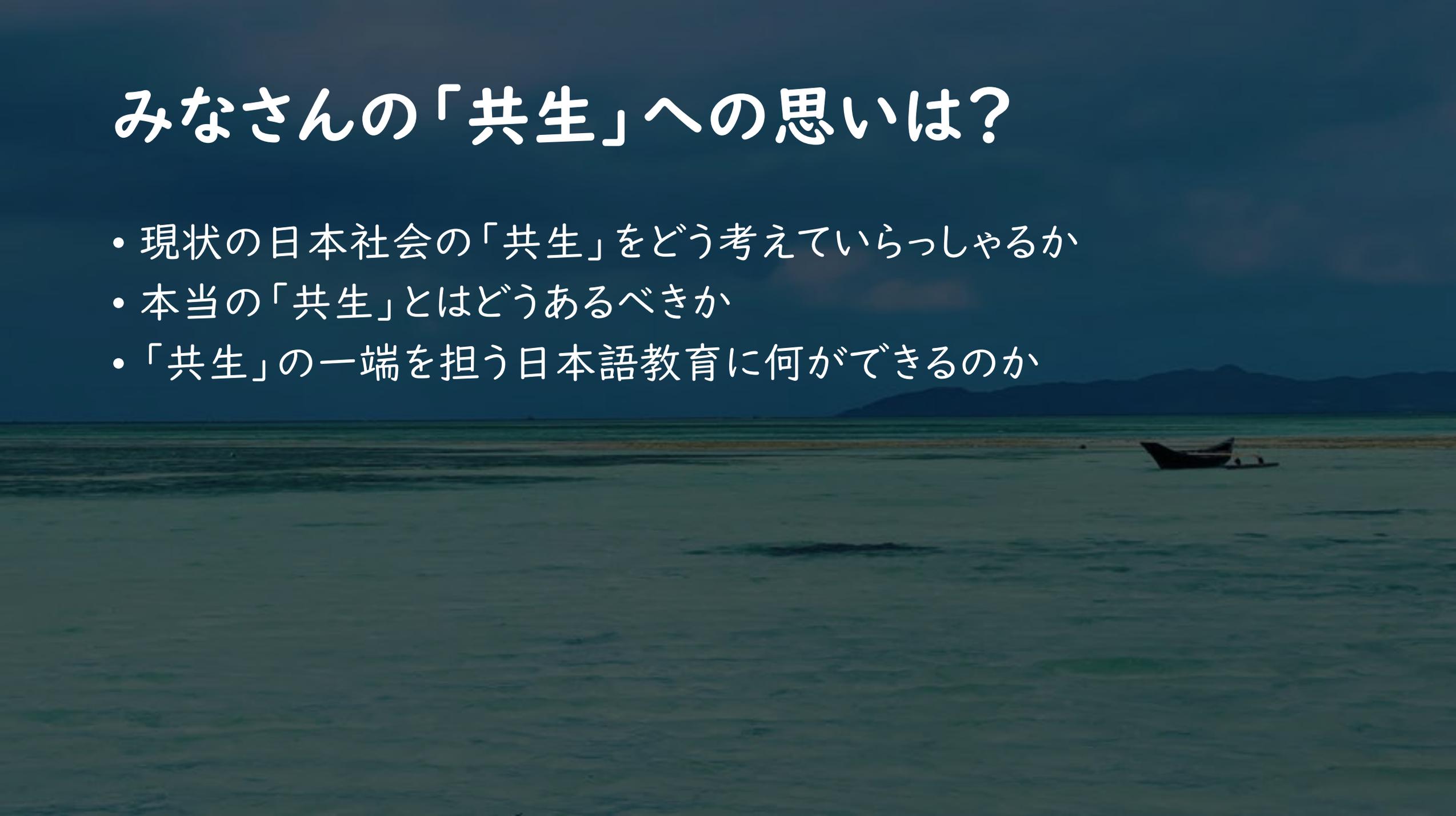
A photograph of a dark, narrow path leading through dense green foliage towards a bright opening. The path is made of dark mulch or dirt, and the surrounding trees and bushes are lush and green. The light from the opening creates a strong contrast with the dark path.

Self-guided walking

Yoshio NAKAI
(Osaka University)

みなさんの「共生」への思いは？

- 現状の日本社会の「共生」をどう考えていらっしゃるか
- 本当の「共生」とはどうあるべきか
- 「共生」の一端を担う日本語教育に何ができるのか



みなさんの「共生」への思いは？

- 現状の日本社会の「共生」をどう考えていらっしゃるか
- 本当の「共生」とはどうあるべきか
- 「共生」の一端を担う日本語教育に何ができるのか

本日は

コーダである私の経験を例にとって

考えてみたいと思います。

社会的アイデンティティとインターセクショナリティ



音声日本語社会を生きるコードとしての行為主体性

言語記号 = 恣意的・社会的

言語活動 ⇨ 言語記号を用いて主体の意識と社会制度 (丸山, 1981)

→ *社会的アイデンティティ (Riley, 2007)

*インターセクショナリティ (コリンズ・ビルゲ, 2021)

「社会的不平等を根本的な調査対象とし、

階級や障害, 年齢など, 相互に関係し形成し合うカテゴリーを用いて、

人間の経験の複雑性や属性の交差点で生じる差別や不利益を理解するための枠組み」



コーダ (Children of deaf adults)

- ・聞こえの程度
 - 聞こえない
 - 中途失聴
 - 難聴
 - 聞こえる

- ・聞こえの程度
 - 聞こえない
 - 中途失聴
 - 難聴
 - 聞こえる



- ・コミュニケーション方法
 - 日本手話
 - 日本語対応手話
 - ホームサイン
 - 口話
 - 筆記
 - 音声日本語



- ・コミュニケーション方法
 - 日本手話
 - 日本語対応手話
 - ホームサイン
 - 口話
 - 筆記
 - 音声日本語



- ・取り巻く環境
 - 親族における聴覚障害者の有無
 - 教育
 - 家庭環境
 - 育児支援

- ・取り巻く環境
 - 親族における聴覚障害者の有無
 - 教育
 - 家庭環境
 - 育児支援



中井 (as a child of deaf adults)

- ・聞こえの程度
聞こえない

- ・聞こえの程度
聞こえない

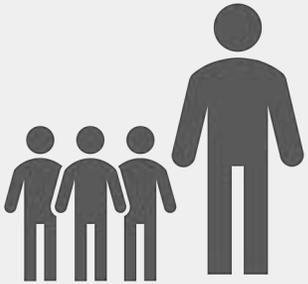
- ・コミュニケーション方法
日本手話
日本語対応手話
ホームサイン
口話
筆記

- ・コミュニケーション方法
日本手話

ホームサイン
筆記

- ・取り巻く環境
全員聴者
教育
家庭環境
育児支援

- ・取り巻く環境
全員聴者
教育なし
支援なし
搾取





コーダ (Children of deaf adults)

両親ともに聞こえない

両親ともに聞こえない

アメリカ手話
ホームサイン



主人公

私

日本語対応手話
ホームサイン
口話
筆記

ろうの兄
漁村
自営業
一軒家
揶揄われる
音楽が好き

外集団



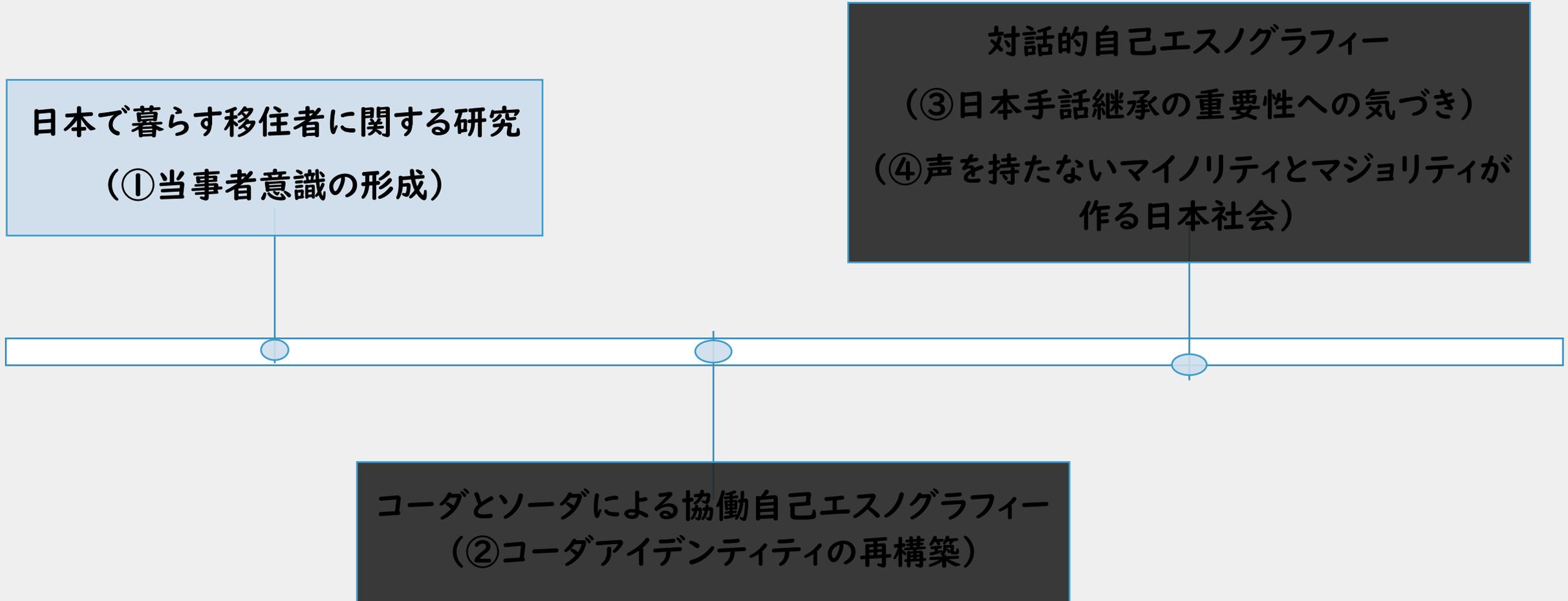
内集団

コーダ
経済的に余裕がない
揶揄われる
音楽が好き
...

一人っ子
都会の下町
マンション暮らし
自営業
揶揄われる
音楽が好き



オートエスノグラフィーに至るまで





当事者意識を形成した研究

移住者の経験についての理解を通して行為主体性を考察する研究(中井, 2019)

・韓国からの女性移住者Jさん(仮名)との対話

結婚を機に来日し、現在、日本語教育や在日コリアン支援に携わっている。

・対話

1回目:2018年5月19日[71分]、2回目:2018年11月10日[120分]、

3回目:2019年1月12日[97分]、4回目:2019年4月27[85分]

・分析手法

複線径路・等至性モデリング(安田・サトウ、2017)



当事者意識を形成した研究

Jさんの経験の理解

- ・避難生活を通して経験した共生

—日本人・韓国人という枠を超えた「他者との間で個人の生きている生を全うした」。

(木村, 2005)

- ・在日コリアンとの関わりを通して知る日本社会での生き方

—日本語が話せずとも自分らしく生きる在日コリアンの姿から、Jさん自身が能力主義に陥り、日本語ネイティブを優位とする日本社会に適応しようとしていた。



当事者意識を形成した研究

中：あんな人の子ども大変やねってよく言われることもあったんです。僕ら子どもやったし弱かったの、親を無視して、あんな変なんやから僕も困ってるんですっていう嫌な言い方をして、そっちについていこうとするんですよ。すごい嫌な気分になるんですよ。でも、それは一つの生き方っていうか。

J：でもそれってすごい似てるのが、在日の方は、私は韓国人でないし、あのグループじゃないよ、日本人に切り替え、日本人よりも日本人らしく生きている在日もいっぱいいますし、それとすごい似てますね。

*両親に差別的な視線を向ける他者に違和感を抱きながらも同調していた記憶の喚起

*聴者の社会に同化する形で社会参加していた自身の行動への気づき

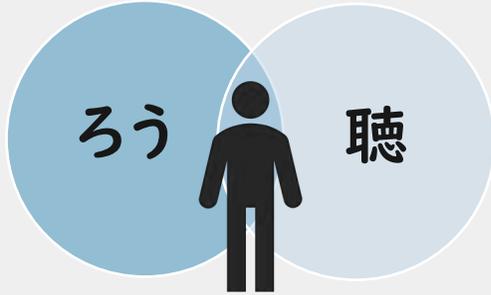
★Jさんとの対話

→自身のバイカルチュラルな側面への気づき、コーダとしての当事者意識の形成



当事者意識を形成した研究

社会的カテゴリー



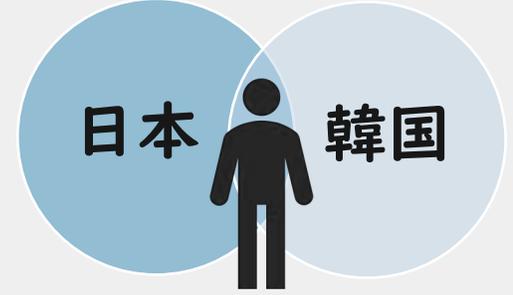
- ・見えないマイノリティ
- ・第一言語話者
- ・障害者家族の一員
- ・両親への抑圧者



バイカルチュラルなコーダ

コーダであることを**パッシング**
優位にある音声日本語と文化に**同化**
障害者家族という**スティグマ**

コーダであることを知る
=コーダ(当事者)である

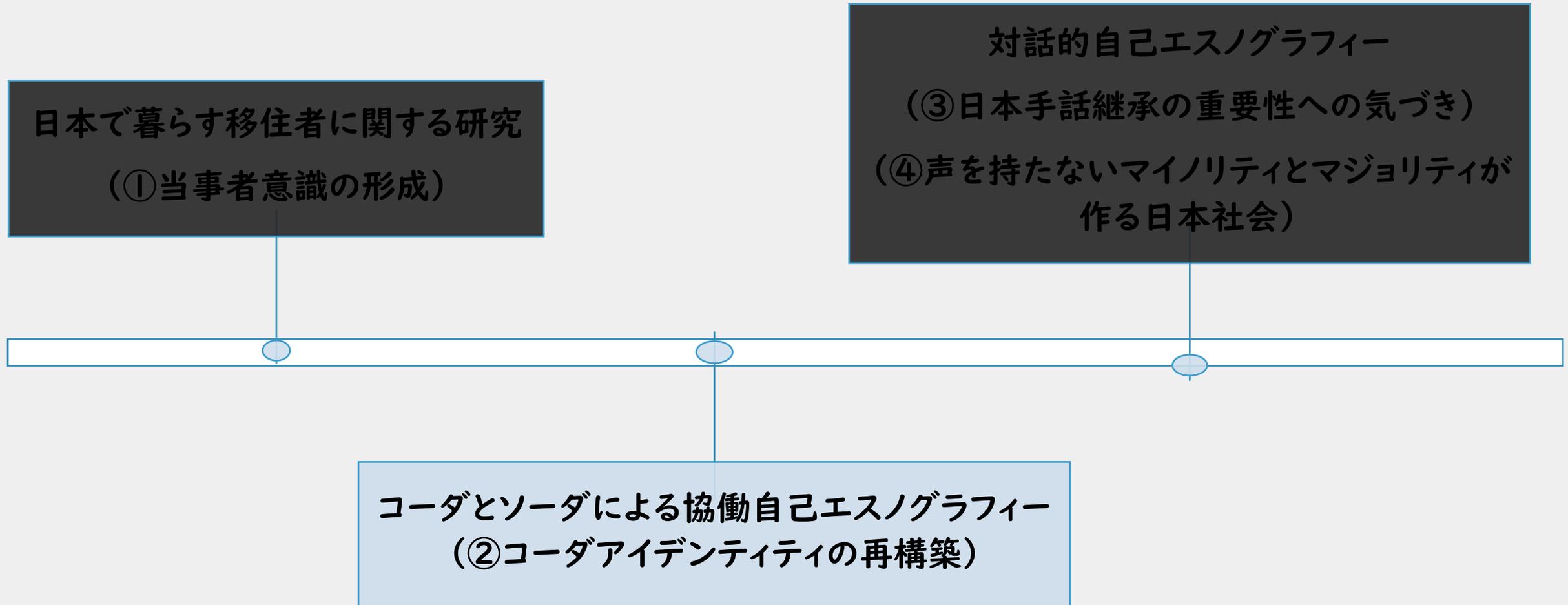


- ・マイノリティ
- ・第二言語話者
- ・日本人への同化
- ・非日本人への抑圧者

社会的カテゴリー



オートエスノグラフィーに至るまで





コーダアイデンティティの再構築

コーダとソーダ (Siblings of Deaf Adults/Children) による当事者研究
(中井・丸田, 2022)

- ろう者家族の経験を探ることが目的
- 聴者の両親とろう者の姉弟を持つソーダによる
協働自己エスノグラフィー (Channg, Ngunjiri, & Hernandez, 2013)
- 対話
 - 1回目: 2018年5月29日 [157分]、2回目: 2018年6月14日 [178分]、
 - 3回目: 2018年6月28日 [75分]、4回目: 2018年11月23日 [117分]、
 - 5回目: 2019年5月18日 [121分]



コーダアイデンティティの再構築

コーダとソーダ (Siblings of Deaf Adults/Children) による当事者研究
(中井・丸田, 2022)

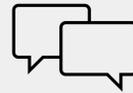
○類似点:ろう者家族

○相違点:ろう者との関係

- ・ろう者の両親と3人家族
- ・家ではろう者がマジョリティ



中井



丸田

- ・聴者の両親とろう者の姉弟
- ・家では聴者がマジョリティ

- ・家族とのコミュニケーション
(両親間) 日本手話
(親子間) 口話・日本語対応手話・
ホームサイン・筆記

- ・家族とのコミュニケーション
(ろうの姉弟間) 日本語対応手話+口話
(家族間) 手話・口話・ホームサイン
(ろうの姉弟以外) 音声日本語



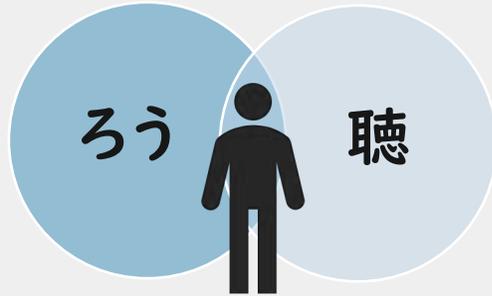
コーダアイデンティティの再構築

- コーダなりの「生きづらさ」の記述と課題の外在化
 - 聴者とろう者のコミュニケーションの違いから生まれる「**認知的不協和**」
(フェスティンガー, 1965)
 - 褒められ続けることで伝わる「ろうの両親を守るべき存在」というメタメッセージ
 - 障害のある両親の世話をすべき「**ヤングケアラー** (Becker, 2000)」の内包
 - 障害者家族の一員という「**自己スティグマ** (Corrigan, 2004)」
- ⇒ コーダであることをパッシング
- ★ コーダの特徴を記述 (言語化) することでコーダという当事者であることを再認識



コーダアイデンティティの再構築

社会的カテゴリー



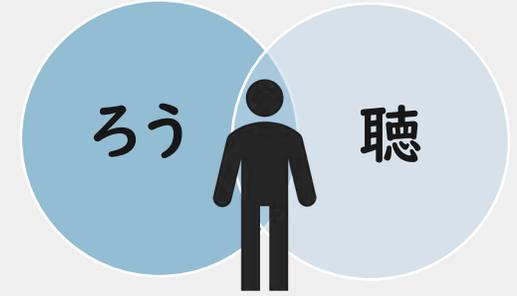
- ・見えないマイノリティ
- ・第一言語話者
- ・障害者家族の一員
- ・両親への抑圧者
- ・ヤングケアラー



コーダ特有の課題と向き合うコーダ

見えないマイノリティとしての経験
マイノリティの**後方支援**
パートタイム的共生
「協同翻訳」

コーダとしての生きづらさの公表
=コーダ(当事者)になる

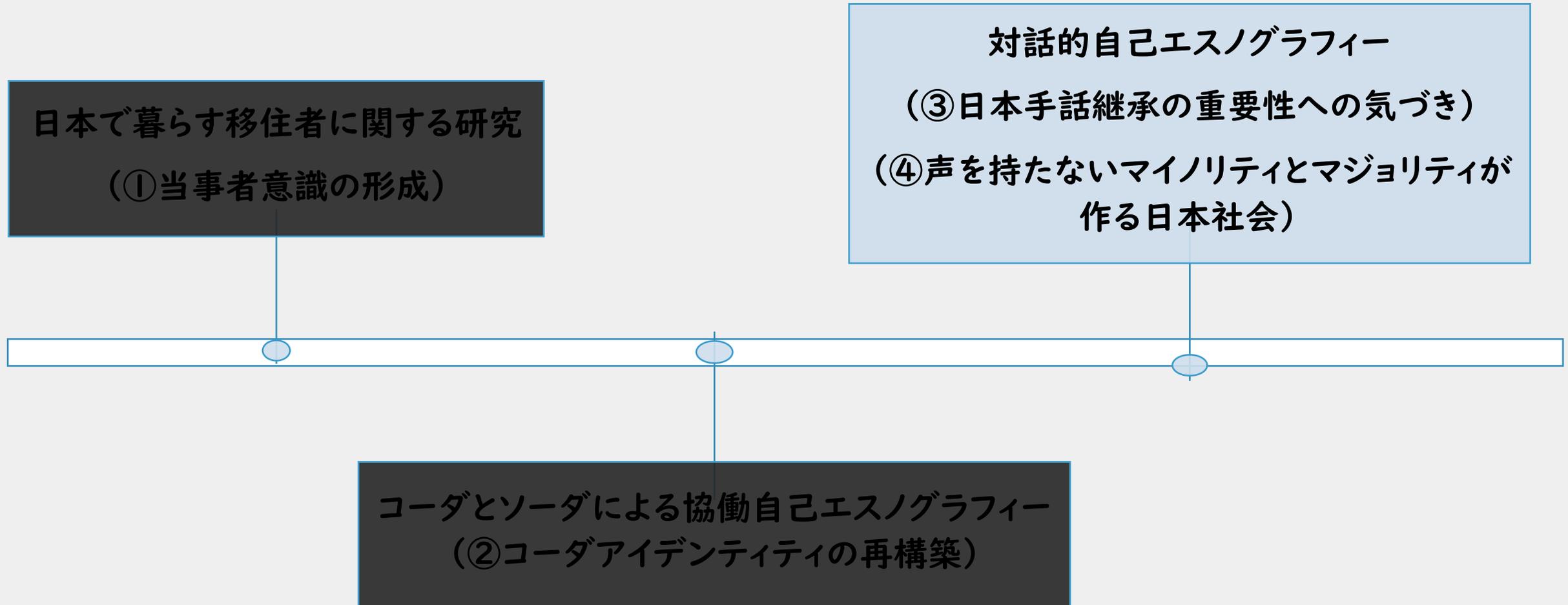


- ・見えないマイノリティ
- ・第二言語話者
- ・障害者家族の一員
- ・ろうの姉弟への抑圧者
- ・**アダルトチルドレン**

社会的カテゴリー



オートエスノグラフィーに至るまで





日本手話継承の重要性への気づき

対話的自己エスノグラフィ(沖潮(原田), 2016)による当事者研究

- コーダとして抱えてきた課題を日本社会という文脈の中で捉え直すことが目的
- コーダである中国人留学生との対話を通じた自己エスノグラフィ

- 対話

1回目:2020年1月11日[70分], 2回目:2020年4月19日[95分],
3回目:2021年3月25日[75分]

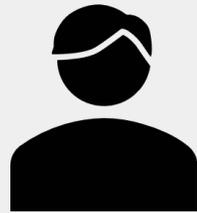


日本手話継承の重要性への気づき

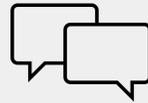
対話的自己エスノグラフィ(沖潮(原田), 2016)による当事者研究

○類似点: コーダ ○相違点: 社会・手話継承の有無

- ・日本生まれ日本育ち
- ・ろうの両親、一人っ子
- ・両親と日本手話では話さない



中井



Kさん

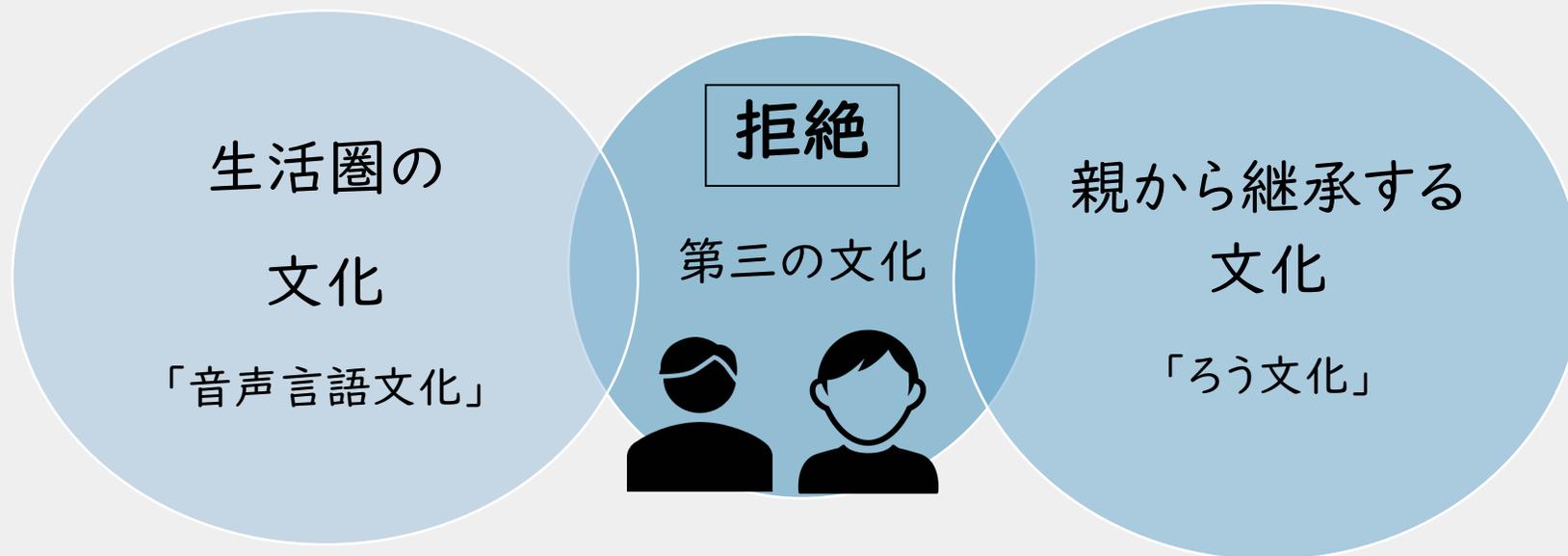
- ・中国生まれ中国育ち
- ・ろうの両親と聴者の兄
- ・両親と中国手話で話す

(両親間) 日本手話
(親子間) 口話、日本語対応手話、
ホームサイン、筆記

(両親間) 中国手話
(親子間) 中国手話、筆記
・日本留学8年目、大学院生



日本手話継承の重要性への気づき

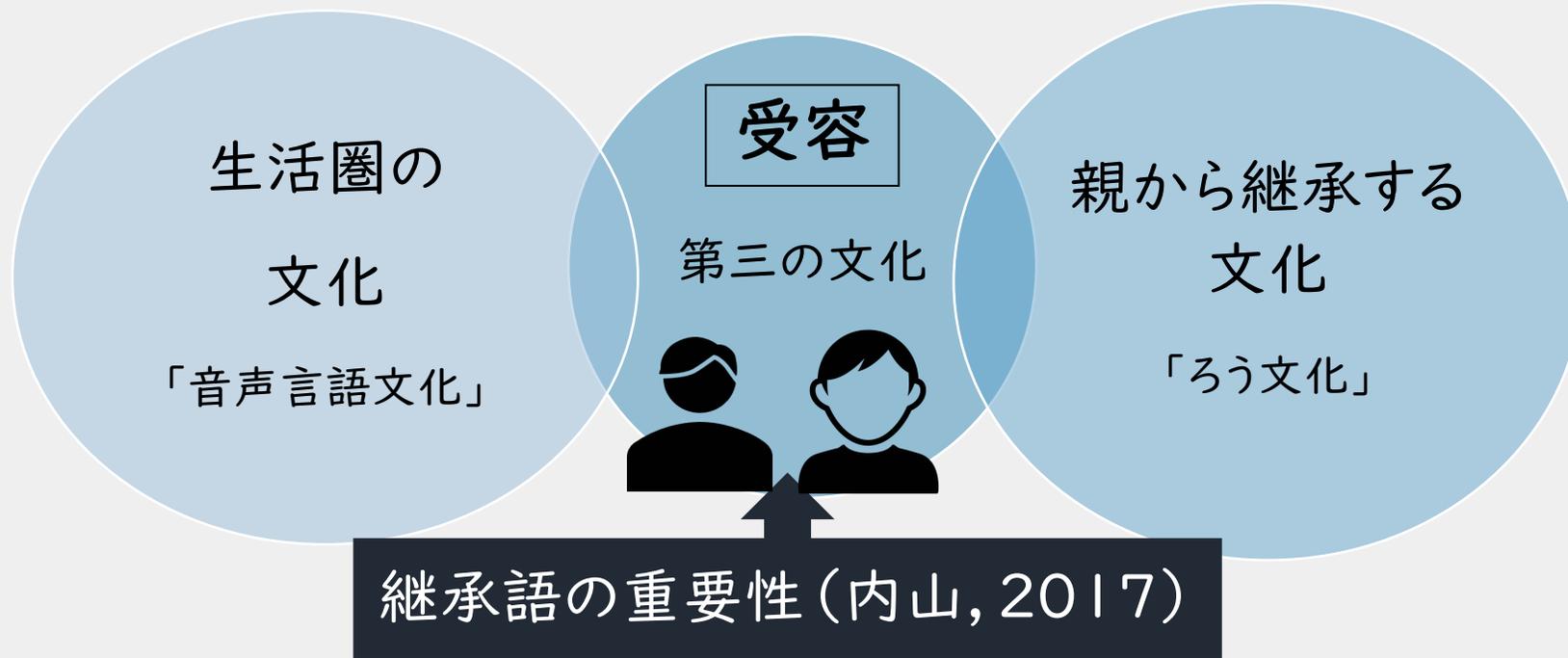


コーダであることをパッシングしてきたのか？

- ・**第三の文化**: ろう文化の中で育ったコーダが音声言語文化と接触することで生まれる文化
- ・「ろうの両親を守る子」という押し付けられた社会的アイデンティティの介在
- 自己スティグマが表出し、不安と恐れを呼び起こす
- **個人的アイデンティティ** (生活史) を隠した **自我アイデンティティ** を持つ (ゴッフマン, 2001)
- ⇨ コーダであることをパッシング = 第三の文化を拒否
(マジョリティの言語と文化知識の優位性 (鈴木, 2014))



日本手話継承の重要性への気づき



- ・ろう文化、コーダに関する知識の獲得、ネットワークの構築
- 能動的な社会的アイデンティティ「バイリンガル・バイカルチュラルなコーダ」へと変容
- 第三の文化の再構築
- ⇒第三の文化の受容 *手話継承の重要性(中井, 2021)



日本手話継承の重要性への気づき

社会的カテゴリー



- ・聴覚障害者の家族
- ・手話未継承
- ・ヤングケアラー
(Becker, 2000)
- ・一人っ子



第三の文化を持つコーダ

認知的不協和
 構造的スティグマ (Corrigan, 2004)
 継承語としての手話教育制度の問題
 支援体制が未整備

コーダとしての生きづらさの改善を考える
 =コーダ(当事者)になる

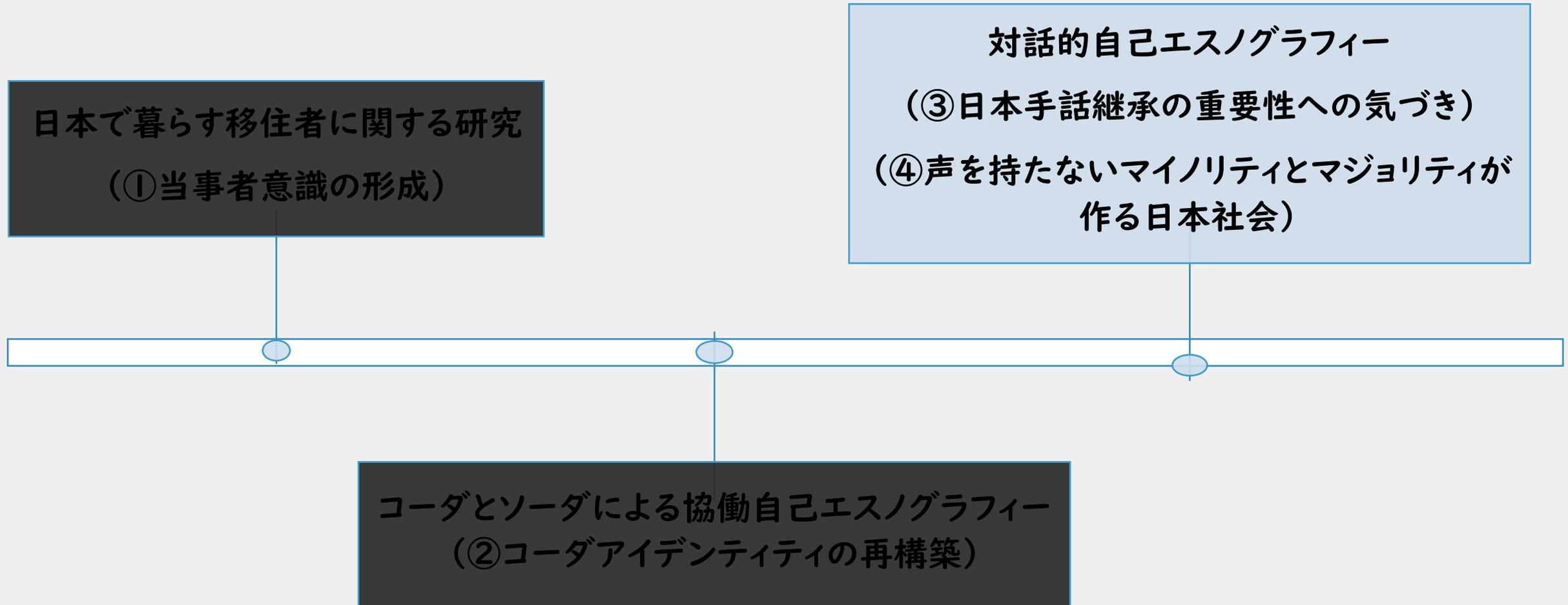


- ・知的障害者の家族
- ・手話継承者
- ・貧困者の家族
- ・兄弟(一人っ子政策)

社会的カテゴリー



オートエスノグラフィーに至るまで





声を持たないマイノリティとマジョリティが作る日本社会

対話的自己エスノグラフィ(沖潮(原田), 2016)による当事者研究

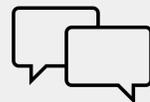
○類似点: 言語的文化的マイノリティー・パッシング

○相違点: コーダアイデンティティかゲイアイデンティティか

- ・日本生まれ日本育ち
- ・ろうの両親、一人っ子



中井



Aさん

- ・イギリス生まれイギリス育ち
- ・ALT、大学英語教員として滞在

・対話

1回目: 2020年3月24日 [57分]、2回目: 2021年1月21日 [60分]、

3回目: 2021年3月14日 [97分]

声を持たないマイノリティとマジョリティが作る日本社会

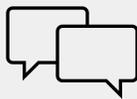


・コーダであることをパッシング

・両親が受ける不利益に
甘んじ、権利も主張せず



中井



Aさん

・相手の反応を見ながら、
段階的・選択的にカミングアウト

・ゲイ+外国人であることで不利益を
被る場合でも、ゲイとしてのアイデン
ティティをパッシングせず権利を主張

・日本社会：マイノリティの権利も保障されるべきであるとする言説

*ろう者の声を裏付ける権利（言語権など）が保障されていな（かった）。

*マジョリティはその言説に参加しようとしな（かった）。

→ろう者もその家族も声を持ちにくく、差別が構造的に温存されて（いた）。

声を持たないマイノリティとマジョリティが作る日本社会



社会的カテゴリー



- ・コードであることを
パッシング
- ・不利益の甘受



マジョリティの特権を持つコード

声を裏付ける言語権の問題
サイレントマジョリティ
マイノリティ差別の温存



社会的カテゴリー

- ・段階的・選択的カミングアウト
- ・ゲイ+外国人の権利の主張

コードのマジョリティ性についての指摘
=コード(当事者)になる



マジョリティとしてのコードダ

▶「マジョリティとしての特権 (ポロック・リーケン, 2010)」

コードダである自分自身は

見えないマイノリティ < マジョリティ (=音声日本語話者の特権を持つ)

である。

- ・自身が持つろう文化を隠すことも、それを両親に強要することもできる。
- ・マジョリティ側に逃げこむことができる。

*自身の特権に内省的にならなければ同化という形で両親に寄り添うことになる。

マジョリティとマイノリティの境界とは??



誰にでもあるマジョリティとマイノリティの境界



変容するコーダの社会的アイデンティティ



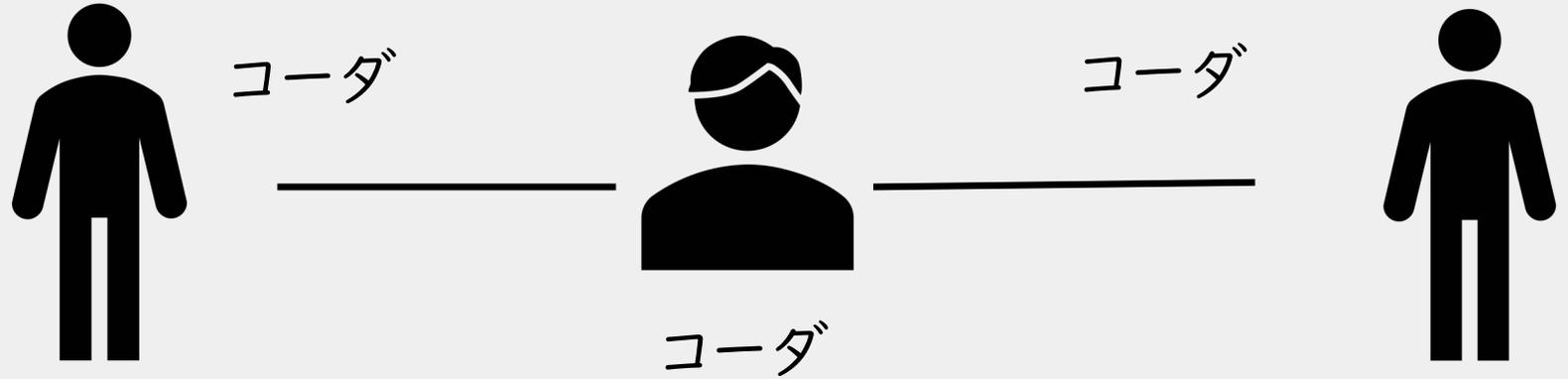


変容するコーダの社会的アイデンティティ





変容するコードの社会的アイデンティティ





自己表現において現れる非流暢性

・認知的不協和の要因

* (私) 教師の目を見てはいけない

* (教師) 人の目を見て話さない・はっきり物が言えない・コミュニケーションが苦手



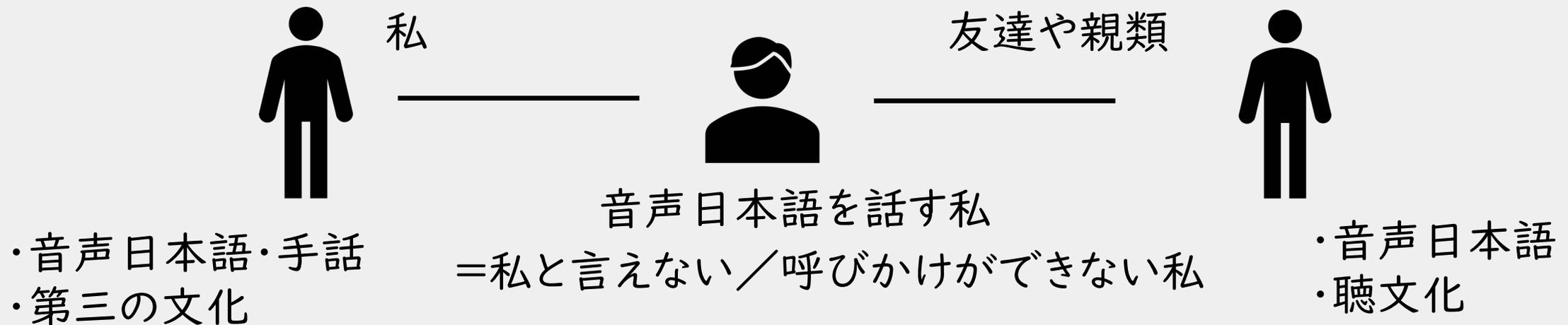


一人称と呼びかけにかかわる表現形式

・幼少期～少年期

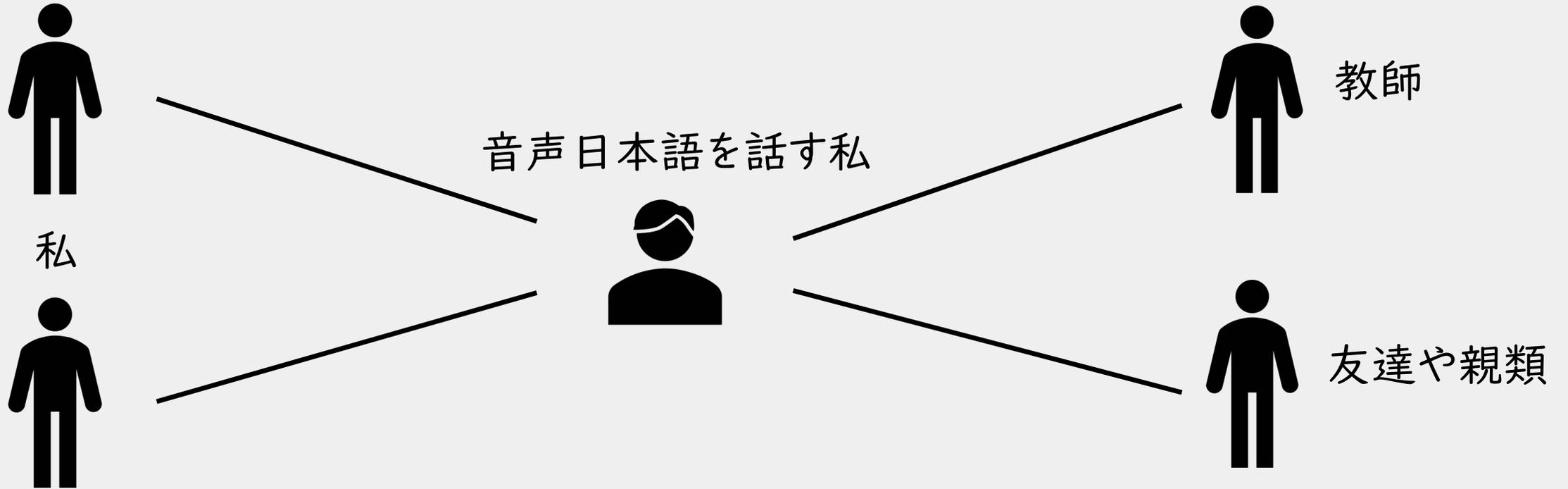
*一人称を示すとき=自身を指さす／対話相手に言わせる。

*呼びかけ=走り寄って肩を叩く。





社会的距離と自己・他者にかかわる表現



親密度高／社会的距離小 = × 私・呼びかけ ○ 自己表現

親密度低／社会的距離大 = × 自己表現 ○ 私・呼びかけ

役割交代で実現される流暢な音声日本語話者



- ・絵本の読み聞かせ

*発表者がうまく読めず、読み手を移住者の親に交代

*発表者は読み手の日本語をチェックする



私の家族



移住者家族



- ・第一言語話者
- ・ヤングケアラー
- ・書記日本語の通訳
- ・日本語教師

音声日本語を話す私
=日本語教師としての私

- ・第二言語話者
- ・元学習者

役割交代で実現される流暢な音声日本語話者

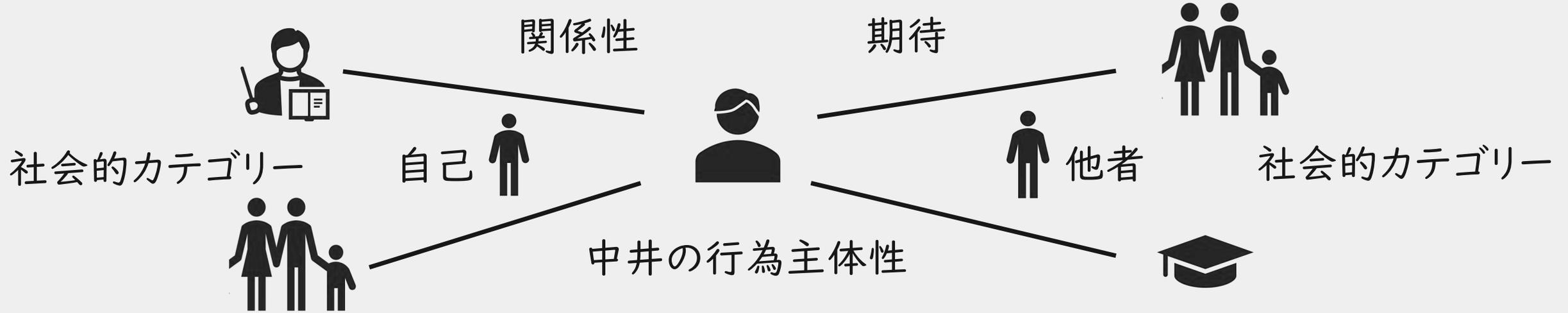


日本語教師としての話者像 > 親役割を持つ生活者としての話者像

→ 日本語の流暢性の担保



コードダとしての中井の行為主体性



• 社会カテゴリーの交差 → コードダとしての

社会的アイデンティティ

と 社会的不平等

*他者との関係性や期待

*マジョリティ性 × 見えないマイノリティ性
(第三の文化を根源)

コードダとしての行為主体性 = 社会カテゴリーの交差 + 権力関係に基づく社会的不平等



アイデンティティポリティクス

コードとしての行為主体性 = 社会カテゴリーの交差 + 権力関係に基づく社会的不平等

↳ アイデンティティポリティクス

・社会カテゴリーの交差によって生まれる人間関係:

資本への「正統性」の付与(象徴資本)を通じて「象徴権力」を得るために、

文化資本を内面化したハビトウスを投資することで繰り広げられる権力闘争の「場」

(ブルデュー・パスロン, 1991)

→ 音声日本語ネイティブ／非障害者の正統性を確立し、権力を維持するための闘争の場

* 中井も自身の権力維持のための闘争をする一人

(→ マジョリティの特権によるマイノリティへの抑圧)



特権とマイクロアグレッション

能力主義

ネイティブ信仰 (Holliday, 2006)

目標言語のネイティブスピーカーをモデルに

オーディズム (Eckert & Rowley, 2013) 聴能主義

マジョリティの特権
(グッドマン, 2017)

・社会カテゴリーを無意識に関連づけることで生まれる「**バイアス** (エバーハート, 2021)」

→ 悪意や自覚もないままに視野を狭め、自らを正当化

→ 周縁化された人を追い込む「**マイクロアグレッション** (スー, 2021)」

* 言語・非言語・環境に埋め込まれた差別

○ 見下すような態度、眼差し、ジェスチャー、口調など

○ 余所者扱い、能力主義信仰、他のコミュニケーションスタイルを病的なものともみなす。



リアリティの分断とサイレントマジョリティ

・日本社会を生きるマイノリティの問題(塩原, 2017):

文化の違いではなく、階層間の格差や貧困、社会的排除によるリアリティの分断に起因

・語れないサバルタンへの抑圧構造を維持するサイレントマジョリティ:

均質的ではなく多様

構造的不正義に身を置きつつ、今ここにある個人間のつながりを生きる。

→「場」(個人と社会との関係性)を捉え直す必要(川端・安藤, 2018)

*社会的カテゴリーの洗い出し (=分断されたリアリティの焦点化)

→ 特権の可視化 + 社会的カテゴリーの交差への新たな位置付け

→ 言語文化的マイノリティを取り巻く社会的不平等を正す社会正義の実現に

再び、みなさんの「共生」への思いは？

- 現状の「共生」をどう考えていらっしゃるか
- 本当の「共生」とはどうあるべきか
- 「共生」の一端を担う日本語教育に何ができるのか





共生の当事者に

自身の経験に新たに意味づけ、当事者性を持ち、社会に発信をする当事者へ
⇒対話を通じた経験の共有が当事者性をもたらす。

例:コードである自身の特権性への気づき



⇒マジョリティが自身の特権を可視化し、同一化することを通して当事者へ

共生における「**アライ**(グッドマン, 2017)」

:自分自身の価値観に基づいて、自分自身のためにも、他者のためにも行動する人



共生のための条件とは？

- ・マイノリティ・マジョリティの両者が主体性を持った当事者になること
＝「個人にとどまるのではなく、
社会を生み出す公共性を持った力（春原，2009）」を備えた
「人々とかかわることば（佐藤・熊谷，2017）」を得ること

- ・脱カテゴリー化（個人化 ＊コトとヒトの区別）
→カテゴリー顕現化
→再カテゴリー化（集団間接触の段階モデル）
- ・自己利益→相互的自己利益→相互依存的自己利益

共生？
現実的じゃない？

日本語教育におけるアイデンティティポリティクス



- 日本語教育における課題

- *能力主義とその特権へのリフレクシブポジション

- *社会的カテゴリーが生み出すアイデンティティ・ポリティクスを踏まえた教育

- *日本語教育の「今・ここ」に生きるサイレントマジョリティの可視化

参考文献

- 池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子(2010)『社会心理学』有斐閣
- エバーハート, J.(2021). 『無意識のバイアス—人はなぜ人種差別をするのか』(山岡希美, 訳) 明石書店. (原典2018)
- 沖潮(原田)満里子(2016). 「障害者のきょうだいが抱える揺らぎ: 自己エスノグラフィにおける物語の生成とその語り直し」『発達心理学研究』27, 125-136.
- 片田真之輔・大川ヘナン・なかだ こうじえんりけ(2021)「共生／共創の多角的検討—I: 違和感とフラストレーションを起点とした協同的オートエスノグラフィ—」『未来共創』8, pp.145-175.
- 桂悠介・佐々木美和・八木景之(2021)「協同翻訳」から始まる共生／共創: 上辺だけではない議論と実践のために」『未来共創』8, pp.177-207.
- 川端浩平・安藤丈将(編)(2018). 『サイレント・マジョリティとは誰か—フィールドから学ぶ地域社会』ナカニシヤ出版.
- 熊谷晋一郎(2020). 『当事者研究—等身大の〈わたし〉の発見と回復』岩波書店.
- グッドマン, D.J.(2017). 『真のダイバーシティをめざして—特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』(出口真紀子, 訳) 上智大学出版. (原典2011)
- コリンズ, P.H. & ビルゲ, S.(2021). 『インターセクショナリティ』(小原理乃訳、下地ローレンス吉孝漢訳) 人文書院. (原点2020)
- ゴッフマン, E.(2001). 『スティグマの社会学—烙印を押されたアイデンティティ』(石黒毅, 訳). せりか書房. (原典)
- 塩原良和(2017). 『分断と対話の社会学—グローバル社会を生きるための想像力』慶應義塾大学出版会.
- スー, D.W.(2021). 『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション—人種、ジェンダー、性的指向: マイノリティに向けられる無意識の差別』(マイクロアグレッション研究会, 訳) 明石書店. (原典2010)
- 中井好男(2019). 「ことばの市民として日本で生きる韓国人女性の生の物語—レジリエンスと行為主体性を生成する言語文化教育へ」『言語文化教育研究』17, 277-299.
- 中井好男(2021). 「私はコーダとして日本手話を継承すべきだったのか—中国出身のコーダとの対話的自己エスノグラフィ—」『言語文化教育研究』19, pp.52-73.
- 中井好男(印刷中). 「コーダである私に映る日本の共生とプロフィシェンシー」鎌田修, 由井紀久子, 池田隆介(編)『日本語プロフィシェンシー研究の広がり』ひつじ書房.
- 中井好男・丸田健太郎(2022). 「音声日本語社会を生きるろう者家族の生きづらさ—見えないマイノリティによる当事者研究」『質的心理学研究』21, pp.91-109.

参考文献

- フェスティンガー, L. (1965). 『認知的不協和の理論—社会心理学序説』(末永俊郎, 訳). 誠信書房. (原典1957)
- ブルデュー, P., パスロン, J. C. (1991). 『再生産：教育・社会・文化』(宮島喬, 訳) 藤原書店. (原典1970)
- 丸山圭三郎 (1981). 『ソシユールの思想』岩波書店.
- 宮澤典子 (2012). 「ろう親をもつコーダの道のり・手話通訳者の道のり」佐々木倫子 (編) 『ろう者から見た「多文化共生」—もうひとつの言語的マイノリティ』(pp.22-45). ココ出版.
- 森岡正芳 (2019) 『臨床ナラティブアプローチ』ミネルヴァ書房
- Becker, S. (2000) Young Carers. In D. Martin (Ed.), *The Blackwell Encyclopedia of Social Work*, Oxford: Blackwell Publishing.
- Chang, H., Ngunjiri, F. W., & Hernandez, K.C. (2013). *Collaborative Autoethnography*. London: Routledge.
- Corrigan, P. W. (2004). How stigma interferes with mental health care. *American psychologist*, 59, 614-625.
- Children of Deaf Adults, INC. <https://www.coda-international.org/> (最終アクセス2022/3/3)
- Eckert, R. C. & Rowley, A. J. (2013). Audism: A Theory and Practice of Audiocentric Privilege. *Humanity & Society*, 37(2), 101-130.
- Grosjean, F. (2010). *Bilingual: Life and Reality*. Cambridge, Mass: Harvard University Press.
- Holliday, A. (2006). Native-speakerism. *ELT Journal*, 60(4), 385 - 387.
- Mellett, E. (2020). Children of Deaf Adults as Third Culture Kids. <https://www.danautanu.com/children-of-deaf-adults-as-third-culture-kids/>
- Riley, P. (2007). *Language, Culture and Identity: An Ethnolinguistic Perspective*. London: Continuum.

みなさま本日は本当にありがとうございました。
これからも引き続き対話ができれば幸いです。



uminchufunto@gmail.com



<https://livinginjapan.me/>